



# 不確実な世界に向き合うための 企業・経済界の創造性

ソニーグループ会長

## 吉田憲一郎

よしだ けんいちろう

# 企

業経営は、多面的な不確実性に直面している。米中の覇権争い、新型コロナウイルス感染症の拡大、

社会の分断、ウクライナ危機、中東情勢の緊迫化、生成AIの台頭などである。そして、2024年は世界人口の半数以上が対象となる選挙の年である。米国をはじめとする各国の選挙動向もまた経営に不確実性をもたらしている。こうした環境下で経営者として意識していることを三つ述べたい。

1点目は、なぜ会社が存在するのか、というPurpose（存在意義）を重視した経営である。不確実性の高い環境下で持続的な成長を実現するには、社員一人ひとりが自立して創造性を発揮することが重要と考える。Purposeとは、その自立や創造性の基盤となるものと位置付けている。

2点目は、テクノロジーを活かした経営である。通信や半導体、バイオなどにおける技術の進化が多くの産業に変化をもたらしている。

そして今、経営が直面しているのがAIという技術である。18世紀の蒸気機関から近年のコンピューターまで、あらゆる技術は常に人の道具だった。また、それがどう

機能するかは予測可能だった。AIは、そうした前提を覆すものかもしれない。いずれにしても、テクノロジーの進化への感覚が今後の経営に求められると認識している。

3点目は、長期視点で事業ポートフォリオを考え抜く経営である。

企業の社会的な存在意義は短期に変わるものではないが、経営を取り巻く環境はテクノロジーも含めて変化する。当社も「感動」という経営の軸は変わらないが、注力領域は製品からコンテンツに広がってきている。

企業経営が環境変化に応じて適切な事業ポートフォリオを実現できるよう、法制度や社会における選択肢を広げる働きかけを行うことも重要と考える。冒頭に述べた多面的な不確実性の中では、開かれた国際経済秩序や、「人そのもの」あるいは「人が生み出す価値」の自由な流通の重要性がますます高まる。

不確実性の高い中でも、企業が成長の実現に向けて高い創造性を発揮できる素地を整えることに、会員企業各位の多様な価値観と英知を学びながら貢献していきたい。